

市の将来都市像
多摩丘陵にはばたく
市民文化都市

第1308号

発行・町田市 編集・企画部広報広聴課
〒194-8520 東京都町田市中町1-20-23
市役所の代表電話042・722・3111
発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)
ホームページ http://www.city.machida.tokyo.jp

鶴見川クリーンセンター



市民が健康で快適に暮らせる 下水処理場の実現のために

鶴見川クリーンセンターでISO 14001の認証取得を目指します

「ISO14001」の認証取得を目指しています。鶴見川クリーンセンターでは、地球環境を保全すると同時に、市民の方に「健康で快適に暮らしていただける下水処理場の実現を図るため、左記の環境方針を策定して、11月1日から環境マネジメントシステムの運用を開始しました。2002年3月に、環境に関する国際標準規格である「ISO14001」の認証取得を目指しています。

「ISO14001」認証取得の目的

これまで鶴見川クリーンセンターは環境法令を遵守して適切な処理場の維持管理に努めてまいりましたが、第三者機関の審査を受け、認証を取得することとしたのは、周辺環境はもとより地球的規模の環境までも含めて環境に配慮した活動を率先して行う姿勢を明確にするためです。

「ISO14001」の認証取得するためには、企業や自治体などの組織が積極的に環境対応を

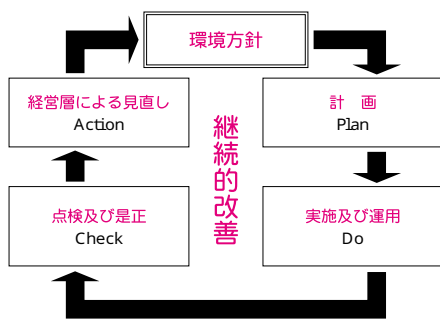
取得するために、積極的に環境負荷の低減に取り組み、職員一人ひとりが自ら環境への影響に配慮した行動が起これる人材の育成を目標とします。また、本来適用される規制基準よりさらに厳しい自主基準を設け、環境保全に積極的に努めていきます。

なお、このシステムの運用によって得られた情報はすべて公開することにしています。

認証取得に向けての運用

「ISO14001」の認証取得を目指すためには、企業や自治体などの組織が積極的に環境対応を

環境マネジメントシステム構成図



回り、環境法令を遵守するとともに、継続的に環境問題に取り組む改善していくためのシステム(環境マネジメントシステム)を構築し、運用することが国際標準規格で定められています。

お問い合わせは鶴見川クリーンセンター(☎042・988・7101)へ。

このサイクルを繰り返すことにより、継続的に環境改善を行っていくこととなります。同センターでは、これを着実に進め、認証取得することを目指しています。

鶴見川クリーンセンター環境方針

基本理念

町田市では「市民の方々が健康で快適に暮らす」重要な都市施設である下水道の整備を積極的に進めております。

今日、下水道の人口普及率は80%に達し、処理場の一日の処理水は、約11万トンと膨大な水量となっており、これからも整備を進める事により処理水の増加が見込まれます。

21世紀は、世界が、地球規模で環境問題に取り組む世紀であり、「川や海の水質を守る」処理場は、一層の「安全で確実」な運転が求められているところであります。

私は、市民の方々から信頼され、安心して生活していただく事を願い、自らに厳しく、自覚を持って、ここに、国際規格ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを構築、継続的改善を進めます。

基本方針

- 1 環境法令並びにその他の要求事項を遵守した上で自主基準を制定し、良好な環境の保全、回復及び創造に努めます。
 - (1) 良好な放流水質の確保
- 2 多摩丘陵の自然と共生できる自然環境の保全をめざし、環境負荷の低減を図ります。
 - (2) 灯油の使用量を減らし、污泥焼却炉からのCO₂排出量の削減
 - (3) 電力消費量の抑制
- 3 循環型社会の形成に向けて資源の節約を実践します。
 - (4) 次亜塩素酸ソーダの適正使用等による資源節約の推進
 - (5) セメントの原料として焼却灰の再利用の継続
- 4 環境パートナーシップをもとに、市民から下水道への理解を得るために具体的行動の展開を行います。
 - (6) 下水道普及啓発活動の推進
- 5 下水処理場の管理運営が周辺環境に対して与える側面を正確に捉えた上で環境目的並びに環境目標を設け、定期的に見直し、恒久的な環境保全活動を継続的に行います。
- 6 この環境方針は市民をはじめ誰もが入手できるように公表します。

2001年11月1日

環境管理統括責任者 町田市長 寺田和雄

人事異動

11月1日付で次のとおり、市に人事異動がありました(部長級、カッコ内は旧職)。
都市緑政部長兼都市計画課長

10月31日付(部長級)。
青木悠(都市緑政部長)

退職

福祉先進国の招へい者が 町田市の福祉施設を視察

(社生活福祉研究機構)は、福祉の様々な制度に特色を持つ国から保健福祉等の専門家を招へいし、意見や情報交換する国際交流事業を行っています。が、この事業の一環として招へいされた2人が11月1日、町田市を訪れ、福祉施設を視察しました。
福祉先進国であるスウェーデン・ナッカ市副市長のマツ・ゲルドー氏とイギリス・ハートフォード県地域経済開発担当参事のデイブ・ケレット氏で、視察の目的は、長寿社会における地域ケアと地域福祉推進のためのシステムの構築について研究するため。町田市は福祉関連施設で住民参加が進んでいることから視察対象に選ばれました。
午後1時に寺田市長を表敬訪問した後、知的障害者授産施設「ニース



玉川学園高齢者在宅サービスセンターを視察する招へい者